

横浜市公立学校教員採用候補者選考試験 試験日程

令和5年度
実施

受験申込受付期間

令和5年

4月12日(水)～5月15日(月)午後5時

第一次試験日

7月9日(日)

第一次試験は「大阪会場」も設置します！

※試験の詳細は別冊の受験案内をご覧ください。

試験に関する説明会(事前申込制)

横浜会場 4月19日(水)
5月7日(日)



開催日時と会場の詳細は
ホームページをご覧ください。

さらに全国4都市&オンラインでも開催！

仙台会場 **名古屋会場** **大阪会場** **神戸会場**

臨時の任用職員・非常勤講師等 募集中！



詳しい情報は、こちらをチェック！▶

お問い合わせ

横浜市教育委員会事務局教職員人事課 任用係



〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地10
Tel:045-671-3246 FAX:045-681-1413
mail:ky-kyosokujinji@city.yokohama.jp

詳しくはこちらから/
横浜市教員採用試験
ホームページ



令和5年度実施

横浜市公立学校教員募集

憧れの街で、
憧れの先生になる。



横浜市教育委員会



横浜で支え合える仲間たちとともに
だれもが安心して豊かに生きる社会のため
子どもたちの笑顔に囲まれ喜びとともに
いろいろとよりどりの未来を鮮やかに創造する
心に描く「憧れ」があたらしい「憧れ」になる



横浜市公式Instagram
[@findyouryokohama_japan](https://www.instagram.com/findyouryokohama_japan)



Live このまちに暮らす

市内へのアクセス



電車やバスなどの公共交通機関を使って、
市内の至るところへ移動できます。
働く学校が変わっても引っ越し必要はありません。

市外へのアクセス



子育てのしやすさ

横浜は「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち」を目指して、妊娠期から出産・子育てまで切れ目のない支援をますます充実させています。

その取組のスタートとして、

**中学3年生まで
小児医療費を無償化！(令和5年8月～予定)**

ハマハグ



子育て中の方、妊娠中の方を、
横浜のお店・施設が応援します。



詳細は
こちらから

住みたい街ランキング

6年連続！
第1位 横浜

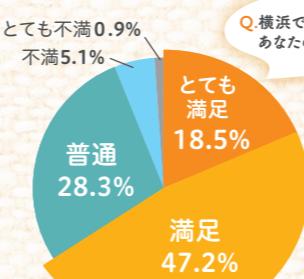
・第2位 吉祥寺 ・第3位 大宮

都会的だけど自然も多く、
寄り道したい素敵なお店が
多くて楽しい！

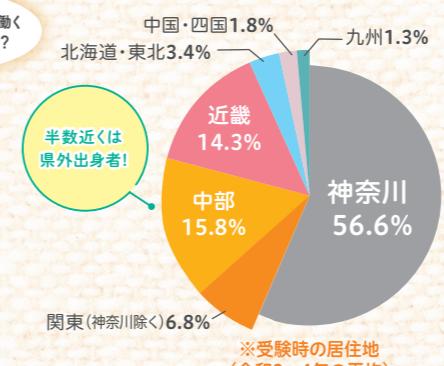
出典: SUUMO 住みたい街ランキング2023首都圏版

Work このまちで働く

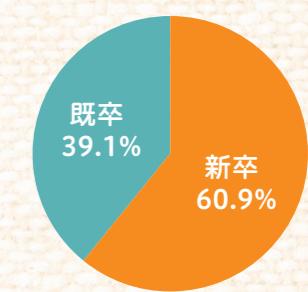
現役教員の満足度



最終合格者の出身地割合



最終合格者の新卒・既卒割合



市立学校データ(令和4年5月1日現在)

学校数(校)	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	特別支援学校	合計
児童生徒数(人)	337	145	3	9	13	507
教員数(人)	174,494	77,006	2,469	7,663	1,486	263,118

20の政令指定都市の中で、
小・中・義務教育学校数No.1！
規模が大きいことが特徴です。

先輩教員を 紹介します

Q. 教員になったきっかけと、教員になつて良かったことを教えてください。

自分に真正面から向き合い、厳しくも優しかった恩師の姿。— 気がつけば、同じ道へ。



教員を目指したきっかけは、自分が子どもの頃に出会った先生方の影響が大きいです。その中でも、自分に真正面から向き合い、厳しくも優しかった先生の姿を見ていたら、いつの間にか、自分も教員を志していました。

実際に仕事に就き、自分の行った取組が、子どもたちの心に届き、何かのきっかけになったと感じられたときには、教員になって良かったなと感じます。先日、読書感想文の指導から「文章を書くことに自信をもてるようになった」と言われたときや、担任した卒業生のある兄弟から年賀状が届き、そこに「教員を目指しています」「先生の言葉が僕の座右の銘になりました」と書いてあるのを見たときには、嬉しく感じました。

Q. 横浜で働いていて良かったことは?

A. 市外出身の先生が多く、地域文化の違いや良さを語り合えることが楽しいですね。児童支援専任教諭がいることも心強いですし、地域の材がとても魅力的で、教材研究も楽しいです。



Q. 子どものコミュニケーションで大切にしていることは?

A. 教師側の立場で子どもの限界を決めない、負荷をかけ過ぎないことです。「答えは子どもの中にある」と思い、目の前の子どもたちと真正面から向き合っています。

受験者へのメッセージ

横浜は教員になってからも学び続けられる環境や、児童指導などの面でのバックアップが心強いです。一緒に横浜の子どもたちのために語り合いながら仕事が出来たら嬉しいです。

人との関わり方や考え方へ影響する大切な時期。— その支えとなり、成長を見届けたい。



もともと自分に自信がなかったのですが、中学校生活で出会った人たちが、私のいいところを見つけたり、褒めたりしてくれたことで自信につながり、その後の考え方や人の関わり方に大きく影響しました。私を支えてくれた恩師や周りの人たちの存在が、「私も、生徒の支えとなり成長に携わりたい」と思うきっかけとなりました。

教員になって良かったことは、生徒の内面的な成長を感じられたときです。個性も考え方も多様な集団の中で、日々の学校生活や学校行事を通して、自分や互いの存在を認められる言動や、誰かのために何かをしようとする心の成長が見られたときに、教員という職業に心からやりがいを感じます。

Q. 横浜で働いていて良かったことは?

A. 子どもも先生も多い分、多様な個性と会えて、いろいろな考えに触れられることが楽しいです。また、職員室業務アシスタントに授業以外の部分をサポートしてもらえるので助かっています。



Q. リフレッシュ方法は?

A. 部活動で子どもたちと一緒に走ったり、帰ってゆっくりお風呂に入ったりする時間がリフレッシュになります。休日は、「休むときは休む」と切り替えることが大切です。

受験者へのメッセージ

都会的でありますながら自然も多い横浜で、子どもたちに教えられることは無限にあると感じます。ぜひ、人とのつながりを大切にして、教員への一歩を進んでいってください。

笑顔は人を勇気づける。— 一人ひとりを思って創る、笑顔と喜びの授業。



大学3年時の介護等体験実習の際、初めての現場実習で緊張していた私は、元気よく笑顔で接してくれた児童と、やさしくサポートしてくださいました。実習の2日間はほんとうに楽しく、また何事にも前向きに楽しんでチャレンジする子どもたちの姿に勇気づけられたことから、自分も特別支援学校の先生になりたいと思いました。

教員になって良かったと思うのは、自分の授業や関わりで子どもたちが楽しそうに笑って、意欲的に授業や活動に取り組んでいるときです。授業の数日前から、子どもたちが楽しんで取り組める授業を意識して、一人ひとりの子どもの実態に応じて教材研究をしたり、何度も試行と修正を繰り返したりして準備した授業に、子どもたちが喜んでいる、笑顔で取り組んでいる姿を見て、とてもやりがいを感じます。

Q. 横浜で働いていて良かったことは?

A. 子育て環境が整っているので、家庭と仕事を両立できています。



Q. 教員同士のコミュニケーションで大切にしていることは?

A. 協調性と情報共有を一番に考えています。一つの授業に多くの教員が関わるのは、肢体不自由のクラスならではですね。周りの方に恵まれ、和気あいあいとした雰囲気で、いつも子どもたちの話題が中心になっています。

受験者へのメッセージ

「三本の矢の教え」のように、一人では難しいことも、チームで取り組むことで上手いく。あなたも、チーム横浜の一員として、一緒に子どもたちのために働いてみませんか。

ぱっと明るくなる表情。— 成長する姿から、私自身も元気づけられている。



養護教諭を目指した最初のきっかけは、「子どもと触れ合うことは好きだし、保健室の雰囲気が心地良かったな。」という単純な理由でした。実際に養護教諭になったら、自分に何ができるんだろうと悩むこともありますが、子どもたちと関わっていく中で、暗かった表情が、ぱっと明るくなったときに、私自身明るい気持ちになって、養護教諭になって良かったなと感じます。

また、低学年のときは泣いて保健室にいた子も、6年生になつたら堂々とクラスで活躍しているなど、6年間を通して成長していく姿を見届けられ、その成長の過程に少しでも関わることができていたのかなと思うと、もっと頑張ろうと思うことができます。

Q. 横浜で働いていて良かったことは?

A. リフレッシュしたいときに、ショッピングをしたり、おしゃれなカフェに行ってみたり、自然を見に行ったり、そのときの気分で楽しみを見つけることです。



Q. 保護者とのコミュニケーションで大切にしていることは?

A. 時系列に沿って、状況を正確に伝えることです。けがの状況や体の様子など、その場にいなくても想像ができるように言葉を選んで伝えています。

受験者へのメッセージ

子どもたちは想像力が豊かで、新たな気づきを私たちに与えてくれます。教員は、可能性に満ちあふれた子どもたちの成長の過程に携われる素敵な職業です。ぜひ、横浜で教員を目指してもらいたいです。



横浜のワークスタイル

—先生のHappyが 子どもの笑顔をつくる—

伊藤先生【小学校教諭】のとある1日

⌚ 7:45 ~ 出勤

⌚ 8:15 ~ 業務開始時刻

伊藤先生 毎朝、黒板にメッセージを書いて、子どもたちを迎えてます。

登校中の見守りは地域の方々が協力してくれています。

⌚ 8:40 ~ 授業開始

伊藤先生 授業では、子どもと一緒に学びを創り、学び方をサポートするプロであることを見意識しています。



⌚ 12:15 ~ 給食の時間

伊藤先生 味覚を高めることや、栄養、マナーについても考える時間でありますことを子どもたちに伝えています。

資料印刷や配布物準備などは、職員室業務アシスタントがサポートしてくれます。

⌚ 15:30 ~ 放課後の時間

休憩時間（小学校では45分）&会議、授業準備、教材研究などの時間

伊藤先生 ふせんに必要な事柄をメモして並び替える方法で、優先順位をつけて仕事を進めています。

部活動（中学校・高等学校）

中村先生

部活動指導では生徒の安全管理を一番に心がけています。



中学校・高等学校で延べ800人以上配置!
全校の99%で活用!（令和5年1月時点）

部活動指導員

教員に代わって技術指導・生徒の引率など、部活動の顧問としての役割を担います。育児や介護等の事情で指導が困難な教員、また、自らの競技経験が浅いなどの理由から、指導に不安がある教員は、部活動指導員を積極的に活用し、顧問としての負担を軽減します。

指導や引率を部活動指導員に任せることで、授業準備や生徒理解に時間をあてることも可能です。



詳細は
こちらから

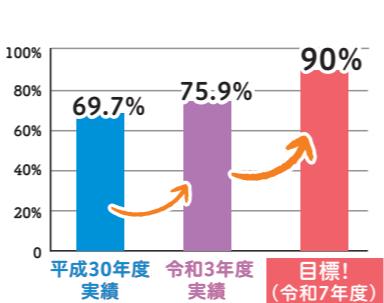
⌚ ~16:45 業務終了時刻

⌚ ~17:30 退勤

伊藤先生 自宅での食事を楽しんだり、近くの海でのんびり過ごしたりして、リフレッシュします。

遅くとも19時までには退勤するようにしています。

19時までに退勤する教職員の割合



Q. 時間外勤務ではどんな業務をしていることが多いですか？

伊藤先生 教材研究や授業準備、評価のまとめ作業などをしていることが多いです。



給与と昇給モデル

初任給	小学校・中学校・高等学校教諭	特別支援学校教諭
大学新卒	約258,000円（約3,958,000円）	約267,000円（約4,072,000円）

給与月額（かっこ内は年収）

採用1年目（年収）	10年後	20年後
約3,958,000円	約5,868,000円	約7,347,000円

現在の給与制度をもとに、大学新卒で標準的な昇給をした場合

主な手当

- 通勤手当 55,000円/月（限度額）
- 住居手当 19,600円/月（自ら居住するために借り受けた住居の家賃を支払っている40歳未満の職員に限る）
- 期末・勤勉手当 4.40月分／年（令和4年度実績）など

休暇

- 土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
- 年次休暇 20日/年付与 ●夏季休暇 5日/年付与 など

学校閉庁期間

横浜では、教員が休暇を取りやすいよう「学校閉庁期間」を定めており、この期間は各学校の判断で会議も研修も電話対応もない「学校閉庁日」を設定しています。

6月2日（横浜開港記念日）
8月3日～8月16日
12月26日～1月5日（年末年始を含む）

全教職員の年次休暇平均取得日数（令和3年度）

17.7日

〔参考〕
市職員（行政職）の平均は16.4日

※上記はいずれも令和5年3月現在の条例等によります。条例改正等が行われた場合は、その定めによります。

他の給与モデルや休暇制度などはこちら！→

もっと教員の仕事に専念するために

チーム学年経営による授業準備の効率化（令和4年度188校で実施。今後も拡充予定。）

小学校高学年における一部教科分担「チーム学年経営」で、学年の教員が一部の教科を分担して指導することによって、学級を越えたすべての児童との日常的な関わりを生み出し、チームとして子どもたちを育んでいます。

担当教科が絞られるため、授業準備が効率化され、ゆとりが生まれます。また、担当教科は、複数回授業を行うため、授業力も向上します。

充実したサポートスタッフ

- ・職員室業務アシスタント【小・中・義務教育学校全校配置】
- 職員室で、教職員の業務をサポートします。

サポート例

- ①外部応対（電話、来客、業者対応等）
- ②事務作業（印刷、データ入力、配布物仕分け等）
- ③職場環境の整備（ファイル整理、文書廃棄、掲示等）

- ・ICT支援員【全校派遣】

- ・AET（英語指導助手）【全校配置】

- ・IUI（国際理解教室外国人講師）【小・義務教育学校全校配置】

- ・理科支援員【小学校全校配置】

- ・学校司書【全校配置】

- ・スクールカウンセラーなど

教育委員会事務局と学校が一体となって働き方改革を推進し、教職員が学ぶ時間を確保することで、教職員の資質・能力を高め、児童生徒の資質・能力の育成に繋げています。

詳細はこちらから！→



横浜はチーム 力が自慢です

チーム学校

～チームで取り組む子どもたちの支援～

横浜の学校では、担任、学年主任、児童支援専任教諭・生徒指導専任教諭、養護教諭、特別支援教育コーディネーターなど、様々な役割を担った教職員が互いに連携し、「チーム学校」として子どもたちの成長に寄り添っています。

児童支援専任教諭・生徒指導専任教諭

学級担任をせず、児童生徒の支援や指導を専任する教諭。児童生徒の抱える諸課題への未然防止、早期発見、早期解決のため、校内の中心的な役割となり、支援体制を整えて担任をサポートしている。小学校では「特別支援教育コーディネーター」を兼務。

特別支援教育コーディネーター 各学校における特別支援教育の充実に向けて、中心的な役割を担う教諭。保護者からの相談窓口を務め、担任や保護者、特別支援学校、福祉・医療機関などの関係者と連携し、支援体制を整えている。



Q.自身の役割と日々心がけていることはなんですか?



児童支援専任教諭 中野 剛

登下校の際に校門で児童と顔を合わせることで、その日の様子の変化などを見ています。普段から関わりをもつことで、必要な支援を行うことができます。教職員と多く会話することで、児童の情報をいつでも共有しています。一人でできることには限りがあるので、様々な方に協力してもらいたいながら、課題解決や支援を考えています。



養護教諭 長谷川 真由

小さな変化も見逃さないよう、保健室以外でも児童と関わるようにしています。普段の様子を知っているからこそ気づけることもあります。気になることは担任や児童支援専任教諭、管理職等に伝えたり、記録をとったりしています。スクールカウンセラー等との情報交換も大切です。何より、養護教諭である自分が元気であることを徹底しています!



学年主任 春木 遼平

学年主任は、チームで仕事をするリーダーという意識をもち、担任同士の連携を図る役割と考えています。また、学習進度の調整や、学級間、学年間の行事の調整をしています。学年主任として、学年全体を考え、課題や問題への気づきを共有することを意識し、先生同士で意見を言い合える雰囲気づくりも心がけています。



ブロック主任 菅原 純一

教科分担制により、子どもたちを3、4年の担任と専科指導教員で見守る体制を整えています。複数の教職員で見た子どもの様子を共有し、様々な方の協力も得ながら、子どもの悩みをすぐに解決できるようチームで取り組んでいます。どんな些細な事でも話し合えるよう、いつでも誰にでも優しく笑顔で接するように頑張っています。

ブロック主任…複数学年の取りまとめ役。



担任 伊藤 久雄

Q.チーム学校の良いところを教えてください。

「ひとりで悩まないように」と言われる現場ですが、チームで相談できる体制があることが良かったです。児童対応や保護者対応など、いろいろな立場、視点からのアプローチもできるので、とても心強く感じています。

メンターチーム

～教員同士とともに学ぶ「メンターチーム」～

横浜の学校では、校内で経験年数の少ない教員と少し先輩の教員が自主的に集まり、「メンターチーム」をつくっています。教員同士が学び合い、互いに悩みの相談や、課題の解決に向けて話し合い、ともに成長しています。メンターチームの活動内容は多岐にわたり、授業のことはもちろん、係活動の進め方、成績のつけ方、保護者や地域との関係づくりなど、気軽に相談したり教え合ったりしています。



Q.メンターチームはどんな場所ですか?

経験年数の浅い先生方が、日々の業務の中では解決しきれない悩みや不安、疑問を気軽に話すことができる場所を目指しています。メンターチームの中で出た疑問や意見は共有して学校生活に生かせる方法を考え、また、先輩の先生方からのアドバイスをもらえる機会もつくっています。本校は経験年数が5年次未満の先生方が多いため、経験を積まれている先生方との交流も行っていきたいと考えています。

Q.メンターリーダーとして意識していることはありますか?

一人ひとりの不安を取り除けるような環境、意見や考えを言いやすい雰囲気をつくることです。意見交換の際は不安などのマイナスなものに限らず、良かったことや嬉しかった出来事などのポジティブなエピソードも聞くようにしています。また、メンターチームで出た話題は先輩の先生方や管理職の先生方にも共有し、学校全体が教員を育てていけるような環境になるよう意識して活動しています。



リーダー 中村 莉李



Q.メンターチームがあって
良かったことを教えてください。



メンバー 井上 昌哉
(採用1年目)

メンターチームがあることで、自分の中の不安や悩みなどを相談し、解消することができるようになりました。教員の仕事は個人での作業が多くなりがちなので、他の先生はどうやっているのか、だれに相談すればいいのか分からない、といった悩みが以前まではありました。そういう自分一人では解決が難しいときに、相談できる人がはっきりしていることがほんとうに心強いです。また、接点の少なかった他学年の先生とも話す機会が増え、お互いの考え方などを共有できるようになったこともメンターチームの良いところだと感じます。

今後もメンターチームで学びを深め、今度は自分が後輩に学びを伝えていく存在になりたいです。

学び続ける先生に充実のサポートがあります

step
1

安心して教員生活をはじめよう

採用前からサポート

採用前懇談会(1月頃)

採用前に、同期の採用予定者と先輩教員を交えた懇談会を実施しています。同じ出身地、校種・教科のグループになるので、不安や悩みを共有したり、先輩教員に相談したりすることができます。(令和4年度は231人参加)



グループ別懇談の様子

採用前研修(12月～3月)

採用前に、教員生活の見通しをもち、児童生徒の前に立つ際の心構えや、着任までに取り組むべきこと等を確認し、安心して着任できるように準備するための研修を実施しています。

eラーニング コンテンツ内容

- ・着任から一か月の過ごし方
- ・横浜のあゆみ
- ・インクルーシブ教育 など

自分で選んで受講できるオンライン研修

オンライン交流会

同期の採用予定者とZoomによる交流も行います。



配属予定校での研修

4月からの配属予定校で、その学校や学区の状況、業務内容などを学びます。



『採用前懇談会』参加者の声

たくさんの同期と知り合うことができてほんとうに良かったです。
また、校長先生や先輩教員のお話から学校現場について詳しく知ることができて、着任するのが楽しみになりました。

step
2

実践力を磨き、基盤を固めよう

横浜型の初任者育成

初任者研修

校内研修



初任者には、指導教員等が寄り添い、チームで校内研修や支援を行っています。実務を通して実践力を養い、教職の基盤をつくります。

校外研修



授業や児童生徒指導等、教職の基盤となる資質・能力の向上を目指します。グループ協議等を通して学び合うことで、初任者同士の同期のつながりも生まれます。



道志村での校外学習
体験研修の様子

小学校の水泳指導に
関する研修の様子

初任2年目・3年目研修

校内授業研究会や、必修の集合研修のほか、それぞれ見えてきた自身の課題に対応する研修を自ら計画をして受講します。

教員基礎研修



自分が学びたい内容について、様々なスタイルで学ぶことができます。

何を学ぶ？

- ・教育公務員としての社会人マナーの向上
- ・授業作りで大切なこと
- ・学級経営案を作ろう など

どのように学ぶ？

- ・集合研修
- ・校内研修
- ・オンライン など

『初任者研修』受講者の声

校外研修では、授業や学級経営等について協議し、悩みを共有して、同期との絆が深まりました。校内でも、管理職やメンターチーム等の先生方に支えられ、基本をじっくり学ぶことができました。

step
3

自分で選んで、学び続けられる

選択できる多彩な研修

中堅教員研修

学校運営において、ミドルリーダーとして職務を遂行するために必要となるリーダーシップや人材育成について学び、資質・能力の向上を図ります。

選択研修



数多くの研修の中から、学びのニーズに応じて自ら選択して受講します。

教育課題研修の内容(例)

- ・主体的・対話的で深い学びの実現
- ・SDGsと学校教育
- ・コーチング

※テーマは年度によって変わります。

企業等での研修

企業等での業務体験や対話を通して、社会を捉える視野を広げ、リーダーとしての資質・能力を高めます。

研修派遣

海外研修派遣

海外における教育実践や生活体験を通して、異文化への理解を深めるとともに、コミュニケーション能力等を高めます。



派遣先(例)

- ・オーストラリア
- ・ニュージーランド

教職大学院・大学等への派遣

教職大学院・大学等への派遣を行っています。研究を通じて、教育に関する専門性を高めるとともに、教育課題を解決する力を身に付けます。

海外研修派遣者の声

海外には、子どもが自律して主体的に学ぶ仕組みや子どもとの関わり方等、教育実践におけるヒントがたくさんありました。また、多様性に対する考え方や、自分にとって大きな財産となりました。

学び続けることをサポート

Leaf(横浜型人材育成システム)

学び続ける教員のための、横浜独自のシステムです。教育委員会が用意した様々な研修・コンテンツの中から、自ら選択して受講できます。また、自身の資質・能力を分析チャートで可視化し、自身のステップアップに活用することができます。



いつでも頼れる人がいます
頼れる場所があります

ハマ・アップ(授業改善支援センター)

ハマ・アップは、授業力・教師力を向上させるための施設で、市内4か所(方面別学校教育事務所内)に設置されています。経験豊かな授業改善支援員(元校長・元副校長)が常駐しており、授業や学級づくりなどの様々な相談に応じています。

授業づくり講座

授業づくりのポイントや学級経営などをテーマにした講座を開講しており、関心のある回に参加することができます。

講座内容(例)

- ・考えることを楽しむ算数の授業づくり
- ・個別支援学級の教室づくり・授業づくり
- ・子どもたちの意欲を高める教材づくり
- ・保護者との豊かなパートナーシップを築くために



詳細は
こちらから



先輩教員が作成した指導案や教育関連図書が豊富にあり、自由に閲覧することができます。

「横浜の教育」の特徴的な取組

—ひとりにしない。子どもたちも、先生も。—

未来の教育の実現に向けた横浜教育DX (デジタルトランスフォーメーション)

~「教育を科学」することで、子どもの学びの質の向上へ~

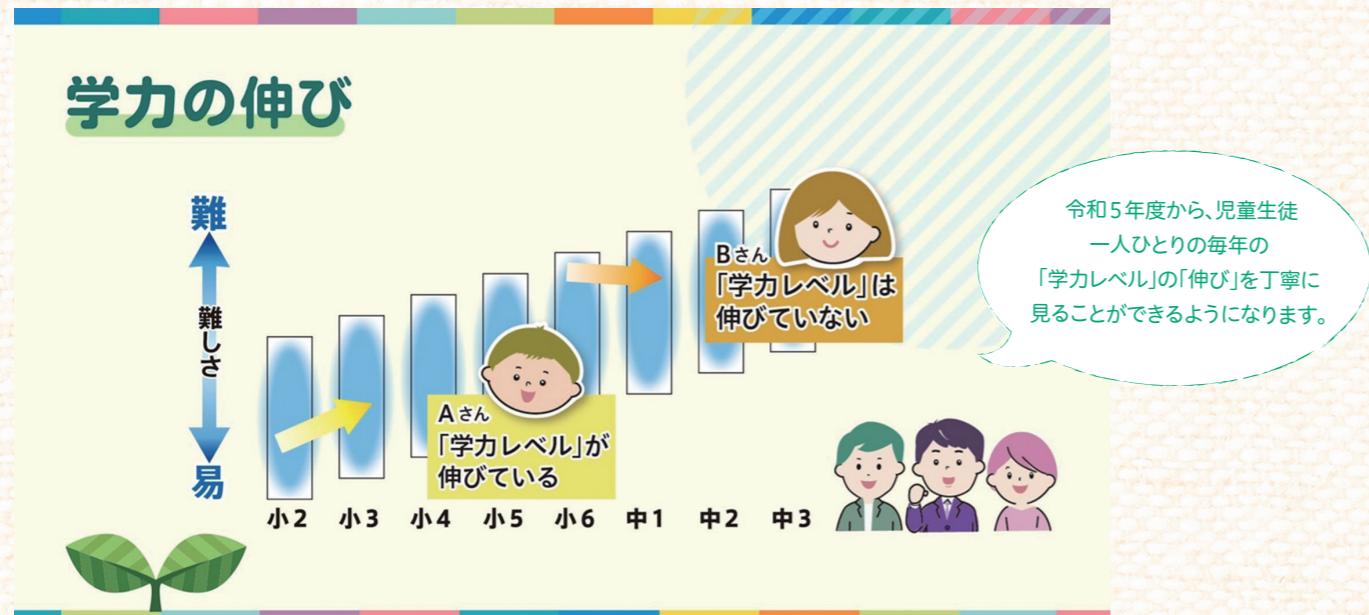


横浜の考える未来の教育とは、「一人ひとりを大切にした学び」の実現です。

横浜教育DXは、①児童生徒、②教職員・学校、③教育委員会の三者をつなぐデータのさらなる分析・活用を進め、横浜の公教育全体の質の向上を目指します。また、24万人の児童生徒を対象とした政令指定都市初・最大規模の「IRT型の学力調査」※を開始し、そこで得たデータから児童生徒一人ひとりへの指導支援に役立てます。

※「IRT型の学力調査」は、問題への解答状況から問題の精度や難易度、受験生の能力などを推定する学力調査です。

学力の伸び



一人ひとりの状況に応じた不登校児童生徒支援

~一人ひとりの状況を丁寧に分析し、チームで支援する~

いわゆる「不登校」の支援については、担任のみならず、児童支援・生徒指導専任教諭、養護教諭、特別支援教育コーディネーターに加え、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門職との連携した“チーム支援”を実施しています。また、教育委員会では、児童生徒の特性や状態に応じ、安心できる居場所と個別最適な学びを提供できるよう、様々な事業を実施し、不登校児童生徒と学校を支援しています。

「不登校児童生徒支援事業」
についてもっと
知りたい方はこちらから



一人ひとりを大切にする特別支援教育

~すべての学校が連携した特別支援教育を提供~

横浜には、特別支援学校が13校あります。さらに、すべての小・中・義務教育学校には個別支援学級(特別支援学級)、特別支援教室を設置し、通級指導教室と合わせて多様な学びの場を提供することで、子どもたち一人ひとりの障害の状況や教育的ニーズに応じた教育活動を行っています。

小・中・義務教育学校内の教員研修に、
特別支援学校の教員が参加し、
その専門性を生かして情報提供を行
うなどの支援を実施。



横浜型センター的機能

特別支援学校や通級指導教室の教員、地域療育センターのスタッフ等が、それぞれの専門性を活かして、各学校の教員の支援や特別支援教育に関する相談・情報提供、研修やサポート等も行っています。

外国につながる子どもたちへの支援

~多様な価値観の中で学び合える環境を整える~



国際都市である横浜には、外国につながる子どもたちが多く在籍しており、学校の中で世界を感じることができます。外国につながる子どもたちができるだけ早く学校に馴染み、国籍に関係なく、多様な価値観の中でともに学び合える環境を整え、多文化共生や他者を尊重する力を育んでいます。

国際教室

日本語指導が必要な児童生徒が一定数以上いる学校に、国際教室を設置し、担当教員が日本語指導だけでなく、教科指導や生活適応指導等も行います。

日本語教室

専門的な資格を持つ日本語講師が、基礎的な日常会話や文字の指導を行います。小学生は在籍する学校で、中学生は市内5か所にある「集中教室」で日本語指導を受けます。

母語通訳ボランティア派遣

授業中に子どもの横で授業内容の通訳を行ったり、転入学時の説明、個人面談、家庭訪問などで保護者への通訳を行ったりするボランティアを派遣しています。

日本語支援拠点施設 'ひまわり'・'鶴見ひまわり'・'都筑ひまわり'

来日間もない子どもたちに、集中的な日本語指導や学校に適応するための指導の他、子どもと保護者向けの母語によるガイダンスも行います。



日本語指導者養成講座

国際教室担当教員や日本語指導に関心のある教員を対象に、研修を行います。講師を日本語指導が専門の大学教授などが担当しています。

自分づくり(キャリア)教育

~地域や社会とともに未来を生きていく力を育む~



横浜では、一人ひとりが自分に自信をもち、社会や集団の中での役割を意識し、夢や目標をもって社会に貢献していく人を育成する「自分づくり(キャリア)教育」を推進しています。

その大きな取組の一つとして、地域企業等と連携し、子どもが主体的に「商品開発・販売」や「地域課題の解決」に取り組むことで、今も将来も社会に貢献していく「はまっ子未来カンパニープロジェクト」を平成28年度から実施しています。

連携機関:丸山農園



地域がキャベツの生産が盛んであることを知った駒岡小学校の子どもたちが、農園と連携して、創立50周年記念献立を考えました!



ハートフルスペース
支援員と創作活動や軽スポーツ活動をして過ごす場所



横浜の教育が 目指す人づくり



第4期 横浜市教育振興基本計画
(2022~2025)を策定しました!



詳しくはこちらから

横浜の教育が育む力

知 生きてはたらく知
公 公共心と社会参画

徳 豊かな心
開 未来を開く志

体 健やかな体
詳しくはこちらを
チェック!



横浜の求める教師像

- ・教育への使命感や、情熱を持ち、学び続ける教師
- ・「チーム学校」の一員として、ともに教育を創造する教師
- ・子どもによりそい豊かな成長を支える教師